

'ο κόσμος, αλλοίωσις' ο βίος, υπόληψις.'

51号 1992.6.10

文・編集・発行
恋 怪子

LIVE: LAST DANCE 1992.5.23 吉祥寺
パウスシアター

SONG & WORDS: 「ガレージ・ランド」1号から



LAST DANCE 1/2 イブレイ
T-UP 1/2 定木
6/10 GHOST WALL 1/2 定木
1/2 屋根根葉 1/2 定木
1/2 定木 1/2 定木
1/2 定木 1/2 定木
1/2 定木 1/2 定木

「ガレージ・ランド」1号から
「ガレージ・ランド」1号から
「ガレージ・ランド」1号から

雑種天国 1・杓子定木で
大きな栗の木の下で
あなたと私
汚れた雨を避けながら
降り明かそう
大きなビルの谷間で
よく見る彼らが
小さな機を踏みつぶす
話していたよ
小さな機もいつしか
膨らみすぎたね
おまえはよく寝もなし
変わる気もなし
小さな蛇口ひねって
水を飲んだら
大きな機を握り上げ
涙に濡った
今日も一日 杓子定木で
単純な大鼓を振り上げてた
今日も一日 杓子定木で
簡単な反拍を繰り返した

「ニューエスト・モデル」のこの歌に
えるよね。
自分の足下の淵に
突きたてるように
歌う中川の音が
たいんだよ
「じゃがたら」の曲に
小さな裏切りの
許すことができる
小さな機取ながら
まんますることが
さるというものが
あつたけど同質の
新立ちを感じん
だ。杓子定木は本
当に悲しいけど、
ぬけようね。
難しいよな。
(瀧沼)

この日はLAST DANCE企画の「Slx, Mix, Box」 というイベントで、T-UP, THE SOLUTIONS, THE STANDS, THE MONSTER-A-GO-GO'S (はじめて見たバンドた、たけび楽しかつた!)、RAM ROD, SLIM SHOTS, LAST DANCEの7バンドで合計5時間。LAST DANCEは毎回同じ曲もいくつかやるけど、毎回はじめてきたという曲もあって底の厚さを感じる。あれくらい実力があつたら、観客が楽しめるはずだと自分たちを信じられるだろうなあ。イベントを企画して、たくさんの人たちに楽しんでもらいたいと思うだろうなあ。
LAST DANCEでは踊り狂うわけにはいかない。踊り暴けるわけにもいかない。ウキウキ踊っていると、歌詞にひきつけられて自分を見つめることになって、狂ったり呆けたりしていらなくなる。そして、つたつまま歌にひきこまれていく。で、またウキウキしてくるから踊っちゃおう...。これをくり返すうちに、自分を追いつめなくても自分のことがわかってきて心が軽くなる。解放される。こうなるとサイコー! ものすごく楽しい。フォ! これこそロックンロールだ! となる。

LIVE: RIP VAN WINK 1992.5.11 渋谷ラママ



はじめて何曲目だったか「SET THEM FREE」の途中でふっつとベースの音にひきかかれた。その瞬間、音楽がぐわつとたちあがってこっちに迫ってきた。耳が感知すると目がそっちに向く。そして、耳と目で感じとったものを頭の中で思考しだしてはじめてくる。この日のRIP VAN WINKのライブではそれが顕著だった。

アサノのヴォーカルは、自分の思いのたけを歌うのではなくて、歌の世界の人物を演じているという感じがする。それがとてもあっていて説得力がある。自分の中に歌の世界があるのでなく、ステージに立つと歌の世界が宿るようだ。この日のライブを最後に、ギターがアンコールのとき「RIP VAN WINKが解散するわけではなくて、RIP VAN WINKの成長の一過程ですから、ライブのお礼からせがいたらまた来て下さい」と笑顔で話すのをきいて、それぞれこれから祝福する気持ちでいっぱいになった。

BOOK: 「原宿サンダー通り」
「ホコ天ローラーサウンドムーブメント」(滝川系稿) ￥2,400

原宿へ遊びにいった、シェイムのステージをはじめて見たのは、2月ころだったと思います。90年の2月ころです。メンバーの人たちが普通の服装というか、気取らない態度と、押しが強いというか、男の人たちでありがちな乱暴なところがないのが気に入りました。
前のほうへ行って、ほんとうに一生懸命なファンにはなれませんでした。ステージの後ろのほうで、シェイムの演奏を注意していました。チョコレートやキャンディを、わたしは投げませんでした。見ていて楽しかったです。
ほかにいろいろなバンドがでているなかで、なんでシェイムが好きになったかといえます。

北川美恵
と、頭をかかえてしまいますが、やさしそう
なところだと思います。
ロックをする男の人は、もうすこしこわい
なところがあったほうがいいのかもしれない
ですが、それがあつたとシェイムもジュンスカ
イウォーカーのように、そばへ近よれない
くらいの大人数にもなってしまうかもしれ
ませんので、これくらいがちょうどいいの
かもしれません。ビッグにならないうほうが
いいというのは、ファンとしてはよくないの
かもしれませんが、
10月で、出ることをやめたのはショックで
したが、写真もたくさん撮っていますし、わ
たしは、しばらくは思い出のなかにいること
ができています。
(90年12月)

LIVE: THE BACK IN GAM 1992.5.24 原宿サンダー通り
5月24日原宿サンダー通りで、はじめて参行者天国でやるという大規模なライブ。THE BACK IN GAMが、はじめて参行者天国でやるという大規模なライブ。THE BACK IN GAMが、はじめて参行者天国でやるという大規模なライブ。THE BACK IN GAMが、はじめて参行者天国でやるという大規模なライブ。

LIVE: ブルーハーツ 1992.6.1 日本武道館
6.2 日本武道館

6月1日。はじめてしばらくして椅子にすわってしまふ。ステージを見る気にならない。音もぼわわんとしては、まりきこえない。「青空」や「イメージ」をきいても、はじめてきいたときの深い感動を思い出させるだけで、ちっともこっちにヒビいてこない。手拍子や合唱をかまわけてきこうとしても何もきこえてこない。やっている方もきっと同じなのだろう。ヒトはパラパラくだらしないことをしゃべってばかりいる。男にも「カマト」って言うのかどうか知らないけれど、かわい子からたおんて感じで、きもちわるーい。この日は、さかんに「メリハリ」ということばを乱発していたけど、アンコールにやった「TOO MUCH PAIN」ではメリハリがないから手拍子があまりまでやまない。
6月2日も全然よくなくて、見るにもきくにも耐えられない。ヒトはパラパラしゃべってばかり。歌や演奏で観客と交流できないから、しゃべって反応を求めようとする。で、ふけいにステージがくだらなくなっていく。
この2日間の武道館のライブは「HIGH KICK TOUR FINAL 一東京決戦」と銘打たれているけど、いったい何にに対しての決戦なのだよ? 自分との戦いだらう。大切なのは、ブルーハーツをききつけているのはそれを見た人からなんだけど、それを見て私も自分との戦いを投げ出さずにいられるからなんだけど、バカさわざの会場の中で、何がひびいてこないのか、何がなないのか、そんなことばっかり考えるせられていた。
生きていられる、限られた大切な時間とあんまりくだらしないものにつかては
いられない。2日ははじめて1時間もしないうちに会場を出た。



HANDBILL: THE MONSTER-A-GO-GO'S

THE MONSTER-A-GO-GO'S
6.12 FRI 6:30 SHELTER
7.9 THU 6:30 SHELTER
7.20 MON Nagoya E.L.L.
INFO/ C&Studio 0422(21)3503

MOVIE: 「JANIS」

FILM
JANIS
ジャニス・ジョプリン
ドキュメンタリー映画
6月20日出〜7月24日金 日曜を除く
銀座シネバトス: 9:00pm-10:40pm
特別鑑賞券発売中 ¥1300 (当日 ¥1600均一)

WORDS: ジャニス「演劇」は「聴く」の一環。真実性とは関係ない。彼女の魂に私の魂も重なり、四苦八苦したり、彼の魂も私の魂に全部受け取り、目も耳も心も見つめたり、ステレオの音も味もない。何とやら子どもと私は試みる。ライブは、その瞬間にだけ見たり、後で「巻戻し」見本はいい。たぶんこれは、格闘技みたい。お互いに「演劇」と「聴く」の間に「演劇」の両方がある。と、半ばは「聴く」の両方がある。その勝負の両方がある。ヒトは高た。「ステージ」上から命懸けで。と。(永山祐子さんの文から)
まだ見ていない人はぜひ! 観た人もまた!
永山さんのやっている「僕らの生意気な楽団」12号より